

寺社を巡る会

活動記録書

開催日: 令和5年3月2日(金) 天候 曇り	開催テーマ: 別荘文化発祥の地・富岡と宮司の講話
開催場所: 金沢区富岡	記入者: 金久保 常二
参加人数: 会 員 30名 準会員 1名 計 31名	
実施内容(実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など): コース:京急富岡駅(集合)～旧川合玉堂別邸跡(二松庵)庭園見学～井上馨別荘跡～下の浜公園～伊藤博文仮寓跡～海水浴発祥の地碑・記念碑～富岡八幡宮(佐野宮司の講話(解散)) 最初に訪れたのは「旧川合玉堂別邸」である。建物と庭園は大正 6(1917)年に造られたもので、105 年も過ぎた。平成 7 年に横浜市の文化財として保存されていた。庭園の大きさは約 8,000 m ² ある。回遊庭園をもち、その庭に古い黒松が 2 本あったため「二松庵」と名付けられた。玉堂はここを避暑・避寒の地として滞在し、付近をスケッチしながら多くの画材を得て幾つかの名画を残した(紅白梅、長閑など)しかし、主屋は平成 25(2013)年 10 月 16 日早朝全焼してしまい、大切な文化財を残念ながら失ってしまった。 明治から大正にかけて風光明媚、気候温暖の地である富岡には中央政界の大物の別荘があった。初代首相の伊藤博文も富岡海岸に仮寓する。隣接地には晩年元老侯爵となった井上馨が別荘を構えた。別荘は「富岡楼」という旅館・料亭となり昭和 10 年頃まで繁盛する。三条実美、松方正義なども、明治の元勳が競ってこの地に別荘を建てた。 富岡八幡宮参道下から続く宮の前海岸は、大磯、鎌倉などの賑わう以前に、海のきれいな、遠浅の景色の良い海水浴場として多くの人々に親しまれていた。その先駆をなしたのが明治 10 年頃のヘボン博士を始め外国人の富岡紹介に負ったところが多い。別荘を持ち、或いは民宿し、日光浴・海水浴の見本を示した。 明治 17 年頃に宮の前海岸にあった料亭「海宝楼」が廃業した後も観光客の来訪が続き、土地の有志は新たな旅館経営を企画した。明治 19 年に株式を発行し、富岡八幡宮下に料理旅館「金波楼」を開業する。庭先には海水を引き込んだ生簀を作り、富岡沖で獲れた魚類を泳がせ宿泊客の眼を楽しませ、注文に応じて調理した活魚料理は金波楼の名物として評判を呼んだ。大正 12 年の関東大震災で建物が倒壊したが再建されることはなかった。 最後に富岡八幡宮を訪問した。建久 2(1191)年源頼朝が摂津西宮の蛭子尊を勧請して創建したと伝わる。安政元(1227)年八幡宮となり、蛭子尊は八幡宮に合祀されている。 本日の探訪は何と言っても最大ポイントが、富岡八幡宮の宮司さんの心の籠ったお話を拝聴出来た事である。富岡八幡宮創建以来の歴史や由来、社殿の造・改築、二大神事である卯陪従、祇園舟など詳しく説明して下さい。そして、神仏分離令の頃の富岡地区の歴史などお話を聞かせて頂き、一時間以上に及ぶ貴重なお話に会員の皆さんは興味深く聞き入っていた。	
参加者の状況・意見など: ガイドの皆さんの行き届いた説明や対応で充実した一日だった。歩行距離など無理なく設定されていた。豊かであった富岡地区が、そして数多い寺社が歴史の大きな舞台であったことを改めて実感できた。	
次回の予定: テーマ 「扇ガ谷の足利・徳川ゆかりの地を歩く」 令和5年4月6日(木)10時 鎌倉駅西口時計台広場集合	